

令和3（2021）年11月25日

尾道福祉専門学校
校長 工藤 博道 様

学校関係者評価委員会
委員長 平石 朗

学校関係者評価委員会報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

社会福祉法人尾道さつき会理事長	平石 朗
社会福祉法人泰清会 サンライズマリン瀬戸施設長	久保田 あけみ
尾道市福祉保健部 高齢者福祉課課長	久瑠飛 高成
広島県立御調高等学校教諭	深川 記代美
尾道福祉専門学校校長	工藤 博道
尾道福祉専門学校教員	金子 清美

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3（2021）年11月8日（水）15：30～16：30

会場：尾道福祉専門学校 ZOOMによるウェブ会議

3 学校関係者評価委員会

別紙のとおり

別紙

I 重点目標について

1 重点目標（1）について

授業やボランティア活動（地域の資源ごみ回収、ラン伴など）で、法人内の職員との関わりや、地域の活動に参加をすすめていることは、介護教育に反映することができている。

2 重点目標（2）について

学校の特色や介護の魅力を伝えるための学校パンフレットや体験入学の工夫、また、奨学金制度や学生の生活支援など、入学生の確保につなげてほしい。

職業実践専門課程校及び専門実践教育訓練講座の指定校、高等教育の就学支援新制度について広く関係者に周知を続けてほしい。

その他

介護福祉士実務者研修、喀痰吸引研修の実施で、施設介護職員の育成のために継続できるよう広報強化など学校の努力を期待したい。

II 各評価項目について

1 教育理念

今後も、学校の理念・目的・育成人材像等について、学生自身や保護者、法人の職員、地域の人に伝える機会をつくっていく工夫を続けていく必要があると思われる。

2 学校運営

学生募集について、かなり厳しい状況である。法人全体や関連分野、また自治体との連携をもって、学校の一層の努力を期待したい。

3 教育活動

新カリキュラムの改正に向けて、実習指導者会議を開催し、地域や介護現場のニーズに基づいた教育活動を展開していることは評価できる。

今後のカリキュラム変更検討等、学生のニーズに対応した学習内容の工夫や介護の魅力伝える教育に期待したい。

4 学修成果

個別対応や学び合いの中から、個人の成長を促す機会を工夫していくことから、退学者や休学者の低減を図ってほしい。入学試験で入学生の学力や人柄などをどの程度把握する必要があるのか、予見できない部分があるが、入学後の成長を期待する。

5 学生支援

学生や保護者、学校が、早期から情報交換し、協力体制を整えていくことや、学力や生活力に課題をもつ学生、発達障害や精神障害のハンディをもつ学生に対して、個別指導、保護者面接で引き続き、支援が必要である。

6 教育環境

同法人の障害児放課後支援事業所が校内教室に開設され、支援の必要な児童の理解につながっていると思われる。前年度までの冷暖房の空調や照明のLED化により、教育環境が整備されていることは評価できる。不具合部分は計画的な改修を期待したい。

7 学生募集と受け入れ

他校の外国人の入学をすすめる動きなど状況の把握に努める。修学の支援に関する新制度の周知などを含め、効果的な広報活動に取り組み、1人でも多くの学生が入学することを期待したい。

8 財務

経営改善に向けた、取り組みに期待したい。25名の卒業生があることが、経営的にも望まれ、入学生30名を目標としていくことで、努力を続けてほしい。

9 法令等の遵守

法令、専修学校設置基準の遵守及び個人情報保護の対策について、引き続きコンプライアンスの意識をもって取り組みことに期待したい。

10 社会貢献・地域貢献

尾道市及び周辺地域での社会貢献活動を通して、介護職のイメージアップを図り、学生募集及び地域の介護人材確保につながる取り組みになることに期待したい。

III まとめ

厳しい学校運営がある現状は否めないと思われる。学校運営等への努力はされているが、学校だけでなく、法人や関係施設、関係機関との協力・連携を強め、改善を図っていくことに期待したい。